

黒木 宗尚： のり増殖の先覚者児玉裕藏君の碑 Munenao KUROI: A monument of Mr. Yuzo KODAMA, a pioneer of Nori culture

もう大分前のことになる。昭和38年5月17日~19日に佐渡島を訪ね、島の南端に当る小木町の海岸を視察した。新潟県の沿岸漁業構造改善対策立案のため県から調査を依頼されたときのことである。東京大学の大島泰雄教授、県の水産課長尾島雄一氏その他の方々と一緒であった。

小木町は江戸時代に佐渡産金の積出港として、また日本海航路の中心に位する商港とし栄えた所であるという。また尾崎紅葉のおおさんや佐渡情話のお光さんの物語をうんだ所でもあるという。県からいただいた

当時(昭和35年)の資料によると、小木町の人口は5,948人、農林水産業に従事し、漁業就業者610人、漁業生産額約7千万円、うち海藻類(ノリ、ワカメ、ツルアラメ、モズク等)が約1割の700万円とあった。

この海域は南仙峡(境)と呼ばれる景勝地で、隆起・陥没の地変に起因するリアス式の海岸で、深く入り込んだ澗と称する入江、隆起床としての平岩盤地帯、奇岩、洞穴或いは洞門にとむ所である。この海岸を小木港から元小木、宿根木、深浦、沢崎、江積の順に視察し、私は当然のことながらノリ、ワカメその他の海藻の増殖・養殖の適否を念頭において海岸を眺め歩いた。

沢崎に至り、沢崎鼻の両側に広大な平岩盤地帯があり、絶好のノリ礁になっているのに驚いた。一町歩はあらんかと当時の私のメモにある。聞けば郡の水産技手児玉裕藏氏の功績によるもので、大正の初めにハッパをかけて造成されたノリ礁とのことであった。そして村民の人達が相謀り、氏の還暦に際し、その功を顕彰し、謝恩の辞を刻んだ石碑と氏の石像に案内された。写真に示したのが沢崎鼻の平盤岩地帯と児玉裕藏氏の石像・石碑である。また書き写した碑文を一緒に示す。

筆者がこの小木地方を訪れた頃は海藻の増殖が盛んにすすめられ、研究されていた時であり、大正の初めにこのような先覚者がおられたということを知って大きな感銘をうけた次第である。

なお江積ではタライ舟、板アラメの製造もみる事が出来た。(060 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学理学部植物学教室)



碑 君 藏 裕 玉 児

大正三年郡水産技手児玉裕藏君巡視
至當村也認海岩巖礁最適紫苔請郡費
補助謀改良獎勵村民養殖之且製造之
而其指導懇切無不到是以業績大舉產
額倍加製品亦優良三崎紫苔之名著遠
邇也村争来取範人感德之永不謬焉君
憂退官歸其鄉金沢村優遊養老今茲齡
登華甲於是村民胥謀貞石勒切傳不朽
以表謝恩之忱之爾

昭和六年六月建之